令和元年度全国剣道指導者研修会（近畿ブロック・大阪府）

剣道の要素を
感じ取らせる
遊びの体験
「新聞紙切り」

実技：竹刀を用いた
「打ち方と打たせ方」

令和元年度全国剣道指導者研修会・近畿ブロック《国庫補助事業》（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本学校剣道連盟、主管＝大阪学校剣道連盟）は、10月5、6日の2日間、大阪府立東淀川高等学校を会場に、中学校保健体育科教員26名を含む79名が参加して実施された。

本事業は、中学校武道必修化の充実に向け、全国の中学校において剣道の導入及び効果的な授業が展開されるよう、全国9ブロックのうち毎年5ブロックで開催されており、今回が本年度最初のブロック研修会であった。研修会は、指導経験豊富な9名の講師により、剣道授業に役立つ講義と実技の全12コマが2日間にわたって行われた。

◇　　◇

■1日目（10月5日）

開講式では、はじめに田谷将俊日本武道館振興課副主事が「本研修会は中学校で剣道が導入され、効果的な授業が展開されることが目的です。この2日間で多くのことを学び、学校現場で生かしていただきたい」と挨拶。続いて、網代忠宏全日本剣道連盟常任理事が「中学校での剣道採用率は、必修化当初の20％台が現在は約35％となり、本研修会の成果が表れている。新学習指導要領では新たな展開も予想されるが、剣道では特に、伝統文化としての礼儀作法の大切さを伝えていただきたい」と挨拶。次いで、笹月繁全日本学校剣道連盟副会長が「大阪では平成21年度にいち早く必修化向けの全国研修会が開催され、その後、故小久保昇治前副会長を中心に研修会の形が確立され、現講師陣によって継承されてきた歴史がある。本研修を通じて1校でも多く剣道が導入されることを願う」と述べた。主管県からは作道正夫大阪学校剣道連盟会長が「日頃皆さんが剣道指導で子供たちと共に汗を流して触れ合っていることは、素晴らしいことである。皆さんが指導で疑問に思っていること、考えていることを確認できるこの機会を楽しんでいただきたい」と歓迎の言葉を述べた。

開講式終了後、視聴覚室で3つの講義を聴講した。**①講義「中学校保健体育における武道（剣道）の学習について」**では、柴田一浩講師が、実態調査結果から、剣道授業の課題点として「基本の技の習得が不十分」「授業が楽しいと感じる生徒の割合が低い」「思考力、判断力を十分に高められていない」の3点を指摘。授業づくりでは「導入の指導」「基本となる技の習得」「段階的指導」が大切であり、本研修会の実技講習を通じて学んでいただきたいと述べた。**②講義「安全指導について」**では、有田祐二講師が、学習効果を上げるためにも事故を未然に防ぐことが大切であり、特に竹刀の管理のポイントを詳説して、生徒にも安全管理を徹底させることの重要性を説明した。**③講義「体罰・暴力によらない指導」**では、花澤博夫講師が、体罰・暴力によらずに褒めて伸ばす指導を推進する必要があり、そのためには日頃から生徒をしっかりと見て、「認める」ことが重要であると説いた。続いて、**④剣道授業実践発表**では追手門学院中学校の堀真康教諭が、自身の剣道授業を通じた留意点や、現場での課題等を紹介した。

昼食後は、剣道着に着替え、体育館で実技講習を行った。まず、**⑤実技「剣道授業における楽しい動機付け」**として、最初に「剣道の歴史と特性」を軽米満世講師が解説した後、「剣道授業における

体ほぐしの運動」を有田講師が紹介し、竹刀を使わなくても剣道の動作や特性を体験できる、「手のひら攻防」「剣道じゃんけん」「手拭いゲーム」等の運動を実践。そして、「剣道の要素を感じ取らせる遊びの体験」を井上孝講師が紹介し、竹刀を用いた「新聞紙切り」「新聞球打ち」「ボール打ち」といった剣道の動作を楽しく体験できる運動を行った。次に、**⑥実技「剣道に必要な動きづくり」**を軽米講師が説明し、「気・剣・体」「残心」を理解させながらの大声での発声方法や、踏み込み、送り足など剣道独特の基本動作を身につけさせる方法として、手刀での体さばきの練習方法を紹介した。これら導入部分の指導方法は、剣道経験がある者も未経験者もみな笑顔で体験しており、「剣道の楽しさ」を実感する機会となったようであった。

次に、**⑦実技「剣道具のない授業例（1）」**として、木刀を用いた、実際の授業例を学んだ。網代講師は、剣道授業で最も大切なのが「礼法」であるとして、伝統的な行動の仕方としての礼の意味を詳説し、全員で動作を実践した。続いて、「木刀による授業例」として、仮屋達彦講師と神﨑浩講師が、全日本剣道連盟制定「木刀による剣道基本技稽古法」を活用した授業の例を説明。一斉での空間打突から、2人1組での対人による面・小手・胴の打ち方、そして「基本1～5」の技まで、段階的な指導方法を学んだ。その後、「基本1～5」を教材としたグループ学習として、10人ごとのグループに分かれ、習得する上での課題を見つけ、克服する練習方法を考え、それを発表するまでを行った。軽米講師から、グループ学習は「主体的・対話的で深い学び」が目標であり、指導者には助言や解決に向かう視点の提示が求められると説明があった。

初日の最後は**⑧研究協議**を佐藤義則講師の進行で行い、「剣道授業の現状と課題」をテーマにグループに分かれて協議した。「飽きさせない授業とは」「経験の浅い教員が剣道の魅力や本質をどう教えるか」「外部指導者とどう連携するか」「用具の保管、管理が問題」など、多くの課題が挙げられた。

■2日目（10月6日）

前日に引き続いて実技講習を実施。**⑨実技「剣道具のない授業例（2）」**では、竹刀を用いた授業例を、花澤講師、井上講師、仮屋講師が説明し、前日学んだ安全確認や基本動作を復習した後、2人1組で、竹刀での打ち方と打たせ方の指導を実践した。続いて、「音楽を活用した授業例」として、佐藤講師が「リズム剣道」を紹介。音楽に合わせての基本技の習得方法を体験し、リズム剣道を用いたグループ学習、発表会を行った。佐藤講師は、音楽を用いると、反復練習を楽しく行え、基本技を身に付けられると説明し、授業での活用を促した。

次に、**⑩実技「剣道具のある授業例（1）」**として、剣道具（防具）を着用した授業の実施方法を学んだ。まず「剣道具の着装」を有田講師が説明。続いて、「基本となる技の段階的な指導」を神﨑講師が紹介、実際に打ち合うため、最初は小さい連打で慣れさせ恐怖心を除くこと、痛くない打たせ方の指導がポイントとの説明があった。その後、「ごく簡単な試合」の方法として、「気・剣・体」を評価する判定試合を学んだ。軽米講師からは、審判役の生徒が判定しやすいよう、判定の基準を明確にするよう説明があった。

昼食の後、**⑪実技「剣道具のある授業例（2）」**として、「応じ技（面抜き胴）」を教材に、段階的な指導方法を学んだ。佐藤講師から、手刀で行った後に竹刀へと段階で進めていくことや、号令に合わせて指導する例が紹介された。続いて、「ごく簡単な試合」の例として、生徒の学習意欲を高める手段ともなる判定試合の実施方法を学んだ。次に、学習が進んだ段階の指導として、3～4つの技を組み合わせて行う「約束練習」や「自由練習」、秒数や技数を制限しての「簡易な試合」の方法を軽米講師、柴田講師の指導により学んだ。

最後に、**⑫「指導と評価」**を柴田講師が説明。評価の方法や留意点に加え、指導と一体の評価方法とは、学習カードの工夫、授業協力者との評価の方法など、指導現場で役立つ解説が行われた。

閉講式では、軽米講師が講評を行い、参加者の菅澤亜紀子高槻中学校教諭が講師への謝辞を述べ、小森園誠大阪学校剣道連盟副会長が主管県挨拶、網代講師が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。